特集

小学校跡地のいま

惜しまれつつもその役目を終えた小学校は、今新たな役割を担い、再び活用され始めました。地域のシンボルがどのように生まれ変わったのか。そして何が始まろうとしているのか。再活用に関わる人々の思いと共にお伝えします。

旧河内小学校

地元住民で会社を設立 大人も子どもも夢を叶えられる場所に

株式会社河内小学校

（左から）高橋浩義さん、白川義樹さん、豊田浩伸さん

コミュニティの場を残したい思いを共にする3人が結束

平成29年4月、旧河内小学校の跡地利用が株式会社河内小学校によって始まりました。メンバーは河内地区で生まれ育った地元の3人。馴染みある母校の跡地利用が検討されていたとき、「どうにかして地域にコミュニティの場を残したい」と、思いを同じにする白川義樹さん、高橋浩義さん、豊田浩伸さんが立ち上がって結成しました。

代表の白川さんは、長年スポ少の監督を務める中で、地元に戻ってくる若者を増やしたいという思いも強く抱いていました。

「河内に帰ってきてもらうためには、ここで過ごした日々が子どもたちの記憶に残ることが大事。だからこそ、小学校の施設を私たちの手で残し、子どもたちが過ごせる場所を作ろうと思いました」と白川さん。地元に小学校の名を残すため、社名は「株式会社河内小学校」に決めました。

三者三様の持ち味を発揮

メンバーは、それぞれ異なる本業を持ち、その経営者でもあります。複数の会社経営に携わるものづくりのプロ、施設設営・管理のプロ、そして営業戦略のプロが揃う職人集団。そのため、河内小学校の事業に携われるのは平日の夜と土日に限られますが、それぞれの技術や知識を活かすことで、効率的な運営を可能にしています。3人が口を揃えて言うのは、「この誰が欠けてもできなかった」ということ。

「学校施設を〝経営資源〟と捉えれば、さまざまな可能性が見出せます。今では、河内小学校の取り組みに魅力を感じた三豊市内外の人から提案を受けたり、イベントへ参加してくれる人もいたりと、大きなつながりができています」と事業のアドバイスを行う豊田さんは手応えを感じています。

学校施設を維持するために今後さまざまな事業を展開

学校施設の維持管理経費を賄うためには、収益を上げることが必要です。そこでこれからは、スイーツマルシェを皮切りに、さまざまな事業が動き出します。中でも面白いのが「聖地化プロジェクト」。コスプレイヤーやドローンレーサーといった趣味に没頭する人をターゲットに、小学校施設のロケーションを活かした事業で集客を図ります。

夢を育てる小学校から夢を叶える小学校へ

3人が持つ将来的な目標は、地域に帰ってくる若者を増やし、雇用の場を作ること。そして、旧河内小学校を大人も子どももやりたいことに挑戦できる、秘密基地のような場所にしたいと意気込んでいます。

「理想を実現するまでには、資金や規制など多くの壁があります。それでも、いずれは地域を巻き込んだ活動へと広げていくために、みんなでアイデアを出し合っているところです」と高橋さん。地域のニーズに応え、地域のためになることをしよう。その思いは共通です。学校が再びにぎわい溢れる場へ。今後の展開が楽しみです。

株式会社河内小学校の今後の事業

①スイーツマルシェ
年2回、スイーツに特化したイベントを開催。

②音楽イベントの休憩所
小学校のスペースを活用して、イベント来場者の休憩所として開放する。

③高付加価値型レストラン
一流シェフを招いた期間限定のレストランを営業する。

④地域商社事業
地元の事業者とともに地域ブランドを開発し、地域の商品を全国に販売する。

⑤聖地化プロジェクト
【コスプレイヤースタジオ事業】
コスプレイヤーを対象に、校舎全面を写真撮影のスタジオやイベントの場として活用する。
【ドローンレースイベント事業】
体育館や校舎で、ドローンレースを実施。メーカーやメディアとタイアップした企画も進む。

◀「学校の風景を残せるように」と、株式会社河内小学校の皆さんは取り組みます

Event Information

旧河内小学校で
スイーツマルシェを開催！

ケーキや和菓子など、県内15店舗以上のスイーツが集結。有名店の自慢の味を食べ比べてみてください。

日時　5月3日(水・祝)
午前10時～午後3時
場所　旧河内小学校
問い合わせ　株式会社河内小学校
☎090-3183-7567

河内地区の女性の皆さんで結成した「ばあばあの会」も、スイーツマルシェに出店します！

出店は初チャレンジです！
ぼたもち作るけん、みんな来てな～

▶ばあばあの会
(左から)平川まさ子さん、藤田定子さん

旧財田上小学校　校舎は木のおもちゃ工房に、運動　場はイチゴ農園にリニューアル

イチゴ狩りができる観光農園がプレオープン

株式会社中四国クボタ
『がっこうのイチゴ園 財田上』

イチゴ狩りを体験するお客さん

開園当初から大盛況のイチゴ狩り

株式会社中四国クボタ（岡山市）が手掛ける観光農園「がっこうのイチゴ園 財田上」が3月28日にプレオープンしました。もともと運動場だった場所には、広さ28アールのハウスが建てられ、今期はその半分の14アールで営業を開始。開園当初から週末を中心に予約が埋まり、ハウス内はイチゴ狩りを楽しむお客さんでにぎわいます。

ここで栽培しているのは、県オリジナル品種の「さぬきひめ」。食べごろに熟したイチゴは糖度15度以上に及ぶものも。車椅子なども通りやすい幅の広いレーンや、立ったまま摘み取れる高設栽培によって、イチゴ狩りがしやすい環境が整えられています。

▲最新のシステムを導入したハウスでイチゴを栽培

来年1月に本格オープン

プレオープンでイチゴ狩りを受け付けるのは、4月末まで。5月からは出荷作業に移り、道の駅たからだの里さいたや農協などに売り出されます。

8月半ばからは、残りの面積への定植を行い、平成30年1月には、全面積を利用した本格オープンを予定しています。

「将来的には、年間1万人以上の来場を見込んでおり、ここでお客さんにイチゴ狩りを楽しんでもらったあと、道の駅などの周辺施設にも寄ってもらうことで地域の活性化につなげていきたいと考えています。地元の皆さんにも喜ばれる場所にしていきたいですね」と株式会社中四国クボタの竹内直己さんは展望を語ります。三豊市の観光拠点の一つとして期待が寄せられるスポットです。

▲腰の位置ほどの摘み取りやすい高さに設置されています

▲中四国クボタのスタッフの皆さん。おいしいイチゴの見分け方を教えてくれます

▶問い合わせ　がっこうのイチゴ園 財田上　☎23-6037

木のおもちゃ工房が本格的に始まります

株式会社なかよしライブラリー

校舎は、株式会社なかよしライブラリーが工房として活用します

工房では木のおもちゃ作り

イチゴ園のすぐ隣、旧財田上小学校の校舎は、株式会社なかよしライブラリー（高知県南国市）が木のおもちゃ工房として5月から本格的に活用し始めます。1階の教室は、おもちゃ作りの作業部屋となり、赤ちゃん向けのおもちゃ（ファーストトイ）を製造します。ここで使われる材料はトチの木やカエデ、桜、ブナの木など多品種に渡り、香川県産ヒノキを使ったおもちゃの考案も今後の視野に入れています。

▲教室は作業部屋に改装中。木材加工用の機械が搬入されています

夏には木工教室を予定

また、工房の一室では木工のものづくり教室を夏からの開催に向けて準備中。

「カッティングボード（まな板）やお皿、スプーンなど、初心者でも手軽に作れるような体験教室を始めたいと思っています」と株式会社なかよしライブラリーの濱田知行さん。体験教室では、糸のこなどの機械を使って加工できるメニューも取り入れる予定です。

木の香りが漂う校舎で体験教室に参加がてら、工房見学もできる。そんな場所ができつつあります。

▲ホールのスペースは、木材のストック置き場として活用予定

地域の中心である学校を絶やさないために

「地域の中心にあり続けた学校です。これからも地域の人が気軽に立ち寄れて、交流し合える場所を作っていきたいと思います。いずれは、隣のイチゴ園とコラボして、お互いの相乗効果で人を呼び込んでくることも考えています」。

ものづくりの教室と工房。そしてコラボによって広がる可能性。旧財田上小学校は、おもちゃ箱のようなワクワクが詰まった場所へと形を変えていきます。

◀工房で製造するのは、シンプルな木のおもちゃ。子どもの想像力を養えると評判です

▶問い合わせ　株式会社なかよしライブラリー　☎090-9557-4482

旧辻小学校

地域に開かれた障がい者就労支援の拠点へ

NPO法人明日に架ける橋『さぁかすチャレンジド三豊』

教室は就労支援ルーム ランチルームはカフェに

旧辻小学校では、平成28年10月1日から、NPO法人明日に架ける橋による障がい者就労支援施設が開設されています。現在、利用者は16人。教室でパソコン作業をしたり、掃除や剪定、草抜きをしたりと、それぞれが自分のできる範囲で仕事に取り組んでいます。

「私たちの目標は、地域に溶け込み、役に立つ存在になること」と施設長の桐野幹夫さんが話すように、ここでは地域の人とのつながりが重要視されています。その交流を生む場所として設置されたのが、ランチルームを活用したカフェ。淹れたてのコーヒーとスイーツが味わえ、ご近所さんがふらりと立ち寄れる場所が一つ増えました。

▲ランチルームは地域の人が集える憩いのカフェに様変わり。カフェ内には、福祉生協が運営する三豊の物産コーナーも

地域の人々との関わりを増やすのが目標

「今後は、地域の人と接する機会を増やしていければ」と桐野さんをはじめ、利用者の皆さんは同じ思いを口にします。今のところ、竹細工教室の開催や校舎の一般利用などを企画中。ゆくゆくは、利用者の皆さんが働く場面で、一緒に手伝ってくれる人が増えることも期待しています。

「143年の歴史が残る辻小学校は、地域にとって思い出が詰まった特別な場所です」。だからこそ、地域の人が溶け込みやすい環境作りを目指します。

利用者の皆さんにとっては、仕事を通して知識を得られる場に、地域の私たちにとっては、利用者の皆さんと交流しながらくつろげる場所になっています。

▲地域の人から提供された竹を使って竹細工作りも始めました

▲教室は就労支援ルームに。パソコンで事務作業をします

職員と利用者の皆さん

▶問い合わせ　NPO法人明日に架ける橋　☎23-6685

小学校跡地

その他の活用状況

旧財田中小学校

新猪ノ鼻トンネル工事の建設ステーションに

佐藤工業株式会社大阪支店

運動場には、職員宿舎と労務宿舎を設置。校舎は建設ステーションとして活用する他、一部を地元の化石観察活動の場として提供している。

旧神田小学校

地元企業が事務所として活用

株式会社安藤工業

校舎は、本社のオフィスとして活用。運動場は、駐車場となる予定。今後は地域の就労場所として、雇用創出を進めていく。

旧大野小学校

山本放課後児童クラブを実施

子育て支援課

山本小学校の児童を放課後や長期休業中などに預かり、遊びや生活の場を提供している。教室・体育館・運動場を利用。

旧箱浦小学校

5月からきくらげ栽培に着手

株式会社エムファーム

運動場にハウスを設置し、5月からきくらげの栽培を開始する。8月に収穫予定。教室は出荷作業のスペースとなる。

地域をつなぐ小学校跡地

長年の歴史を刻み、思い出が詰まった小学校。そこを活用する皆さんに共通するのは、「地域の拠点だった場所だからこそ、大事に活かしていきたい」という思いでした。

これから新たな用途での活用が進みます。校舎にはにぎやかな声が戻り、再び人が集まる場所へと変化しています。

将来への豊かな可能性を秘めた跡地利用。胸いっぱいの期待を込めて、見守り、協力し、参加していきませんか。